

# 岡山市区づくり推進事業助成申込書

## (地域活動部門)

平成27年6月22日

岡山市長 大森雅夫 様

フリガナ そうめいがつくれんごうじしゅぼうさいかい  
団体名 操明学区連合自主防災会  
所在地 岡山市中区江並127  
連絡先 090-3171-5711  
フリガナ おだみつお  
代表者氏名 小田光雄

※ 提出した申込書の内容が、岡山市のホームページ上で公開されることに同意します。  
ただし、個人情報に関する部分は除きます。

応募分野	(該当の分野を○で囲んでください。) ア 地域課題解決    イ 地域課題掘り起し ウ 地域計画づくり Ⓔ 地域課題解決型の地域組織づくり    オ その他
事業名称	操明学区防災フロント（最前線）事業
事業実施区域(小学校区)	岡山市中区 操明小学校区
事業実施回数	新規 ・ 5年計画
事業の目的	当地域は、干拓地で低地にあり住民に身近で、住民全体にかかわる地震・津波高潮・洪水災害が絶えず懸念される環境にある。 こうした環境にあっても、地域住民の防災意識は必ずしも高くはない、防災に対する個人の意識と個人の自助対応力の向上を図るとともに、学区内の防災対策組織をより実働・実践型へ再構築を目指す。
事業の必要性	当地域は、0メートル地帯で、前面は児島湾、両側は旭川、百間川にかこまれた、約9K平方メートルの地域である。一部住民の学区役員クラスは、防災意識は高く行政機関に対して防潮堤の構築、排水機の増強など積極的に活動してきた。 しかし、近年新しい団地やアパートが出来て、新住民や児童が増え昼間働く人々も多くなり、人々間の繋がり交流は増々希薄化し、個人の生活プライバシー意識が高まり防災対策上の自助・共助活動は、住民に深く期待することは難しい。 そこで、小地域最前線の町内会の班単位から人材（防災協助力員＝仮称）を発掘し、地域の防災リーダーを多く育て、実働・実践組織に組み込み、地域の最前線活動に仕上げる。 と共に、子・孫まで持続可能な組織・枠組みを仕上げる。

事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 人材の発掘と育成＝人材発掘登録、研修、会議、活動資格取得、実践訓練</li> <li>2) 企画組織の編成＝連合自主防災会、各種団体。企画委員会、推進委員会</li> <li>3) 執行事項＝災害や事故の定義づけ整理。要配慮者の選択と同意づけ。 要配慮者の名簿作成、要配慮行為の円滑支援マニュアル作成。 個人（要配慮者）情報の共有化・活動の連携と協働ルール作り。</li> <li>4) その他 広報＝住民啓発の身近な防災を学ぶ自助活動の実践を広報</li> </ol>
期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 住民の防災への関心の向上と活動参加意欲の醸成</li> <li>2) 学区内での具体的自主防災活動の充実と実践の定着</li> <li>3) 学区内での防災協働員の率先活動の向上と定着</li> <li>4) 要配慮者の平常時見守り、非常時の救護活動の充実。</li> <li>5) 地域の各種団体とのコミュニケーションの向上</li> </ol>
企画などの工夫	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 全住民をいかに巻き込んでいくのか、既存の地元組織、1つの連合町内会、27単位町内会、23の各種活動団体と円滑な連携・協働を模索する。</li> <li>2) 学校・地域にある行政機関、企業等と連携、支援、協働を円滑に進める努力をトップリーダーがはたす。</li> <li>3) 広報紙、操明ホームページを通して住民啓発をする。</li> <li>4) 「操明学区福祉活動策定委員会」（27年発足）との連携協働を図る。</li> </ol>
事業の情報公開	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 連合町内会誌「操明ネットワーク」への掲載（年4回全戸配布）</li> <li>2) 連合町内会役員総会への報告（年4回）</li> <li>3) 連合町内会「操明ホームページ」へ掲載（活動記録）</li> <li>4) その他紹介に対応して情報公開をする。</li> </ol>
次年度以降の予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 初年度は、関係者、住民、防災協働員の啓発研修・訓練を重ね、人材の発掘。要配慮者企画対策の実施に集中したい。災害対策必要資器材の選定と準備。</li> <li>2) 一次避難所の円滑運営マニュアル作成。防災アンケート。各種団体との協働企画。</li> <li>3) 災害通報、避難準備、避難、誘導、救出救護等の円滑マニュアルの見直し作成。</li> <li>4) 作りだした人材、組織、マニュアル類、施設物品資材等総合的に運用して検証し、5年目で総合訓練を通して定着・習慣化としたい。</li> </ol>
その他PRしたい点	<p>小地域で住民最前線の防災活動と福祉活動は、住民の個人生活上の身近な課題であり、特に要配慮者に対する支援は、防災と福祉を一体的に包括した活動実践と捉えたい。</p> <p>班が、地域・人・モノ、組織、は、最小値の協働コミュニティの原点。</p> <p>災害時に起こりうる課題に、平常時協働（コミュニケーション活動）を含め、防災訓練とする。</p>

事業スケジュール

			7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
企画会議		3	1	1	1	1	1	1		1	1
準備・会議		自助・要配者について				単位町内訓内容				総資料準備	
事業執行		幼・小・中・高防炎訓練見学	新役員研修		要配者簿更新		防災訓練			次年度の計画	
反省会				研修会からの課題				訓練からの課題			
監査報告会											1
次年度企画会議								1			1